

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和4年度取組結果】

団体名	公益財団法人 アジア成長研究所
-----	-----------------

所管課	企画調整局 国際政策課
-----	-------------

団体に対するミッション
<p>地元貢献を重視した日本を代表するアジア研究機関を実現するため、地域への知的貢献と国際水準の知的基盤の強化を目的とする活動を行う。</p>

行財政改革大綱における見直し内容
<p>本市がアジアの中核的な産業都市として持続的な成長を実現するため、今後、アジア諸国の先進事例研究などの活動を推進し、研究成果を積極的に公表し、広報活動を強化する。</p> <p>また、客観的な成果指標を策定し、26年度から3年間、その成果を評価し、その結果によっては、大学等との統合又は廃止を検討する。</p>

ミッションに基づく中期計画

3～5年後に目指す状態	(1) 地域貢献：市や実業界から政策や戦略決定上、有益なシンクタンクとして認知される。 (2) 学術：RePEc (Research Papers in Economics) 格付けの日本国内研究機関の九州内上位3位内を維持する。							
主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H30	R1	R2	R3	R4		R5	R6
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
市政・企業活動に貢献する調査研究件数	3件	3件	3件	5件	3件	5件	3件	
成長戦略フォーラム参加者の満足度「良かった」の割合	91%	93%	97%	92%	90%	98%	90%	
著名な学術雑誌への論文掲載数	9本	4本	5本	5本	5本	5本	5本	
第三者による研究内容の評価（RePEc九州内上位3位以内）	-	-	-	2位	RePEc九州上位3位内	2位	RePEc九州上位3位内	

※RePEc=Research Papers in Economics（米国）
 世界81カ国の40,000人を超える研究者が登録する経済研究論文データベースサイト（2014年11月現在の登録数=42,367人の研究者及び6,724の所属研究機関）。論文引用数を含む31項目の異なる基準により、登録者の研究内容を客観評価し、毎月ランキング（地域別、国別等）を発表している。

ミッションの遂行状況の評価（令和4年度）

団体における評価	市に対しては受託研究や勉強会の開催により、市民・企業に対してはタイムリーな企画でセミナーを提供し満足度を高める等によって、地元貢献を推進した。また学術研究活動においては、コロナで機会減となっていた学会活動等を再開したほか、研究成果の著名雑誌への掲載、国際的評価指数等から見ても、国内外で高評価を受けている。	市の評価	市からのミッションのうち、地元貢献については市政・企業活動に貢献する調査研究件数や市民向け講座開催数が目標を上回る等、積極的な活動を行っている。特に北九州空港の将来像・展望に関する勉強会を開催する等、市の課題に直結したものを実施した。また、学術面についても国際的評価において九州2位と目標を達成した。
今後の課題及び見直し内容（案）	引き続き「国際水準の知的基盤の強化」を維持すべく、積極的に海外の研究機関との連携や学会への参加を行う。また、市の活性化に繋がる調査研究の促進及び市のシンクタンクとしての機能強化により、「地域への知的貢献」に繋がる活動を推進していく。	団体への改善指導内容（案）	引き続き、地域貢献に資する研究の深化、拡大を図るとともに、将来を見据えた社会的課題にかかる調査研究を行うよう求める。また、研究活動については引き続き、外部資金獲得に努めるとともに「国際水準の知的基盤の強化」のより一層の推進を求める。

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	特に具体的な成果が求められ、成果が見られなければ統廃合を検討する団体
平成26年度から3年間の総合評価の結果、概ね高水準で目標を達成していたため現状の体制を維持することとなった。 令和3年度から開始した中期計画（R3～R7年度）も半ばに入ったことから、国際水準の知的基盤の強化及びより一層の地域への知的貢献活動の強化を推進していく。	

ミッションに基づく具体的取組み（令和4年度）

目的（目指す状態）		活動計画（どうやって目的を達成するか）									
1	研究活動を通じて、本市の活性化や政策立案に貢献する					①市の政策に関する提言を推進し、研究活動の地元経済界への貢献を図る ②研究成果に関する市民・企業への情報発信を強化する					
	成果指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	活動指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
	① 市政・企業活動に貢献する調査研究件数	3件	5件	3件	5件	① 市の政策委員会等への参画数	1件	1件	2件	1件	
	② 成長戦略フォーラム参加者の満足度アンケート結果「良かった」の割合	97%	92%	90%	98%	② 地域と外部関連機関等とのネットワーク構築数	7件	8件	5件	7件	
	③ 成長戦略フォーラムの企業関係者参加割合	44%	49%	40%	29%	③ 成長戦略フォーラム等市民・企業向け講座、セミナー、研究会の開催数	11回	11回	10回	13回	
					④ メルマガ会員数	526名	530名	515名	527名		
目的（目指す状態）		活動計画（どうやって目的を達成するか）									
2	アジア研究を推進し、日本・アジアの政策立案に貢献し、日本を代表する研究機関を目指す。					①国内外の研究機関との連携によるプロジェクト研究を拡充する ②研究成果を公表する（当研究所の知名度向上） ③外部評価制度を導入する（学術レベル評価）					
	成果指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	活動指標	R2年度実績	R3年度実績	R4年度目標	R4年度実績	
	① 著名な学術雑誌への論文掲載数	5本	5本	5本	5本	① 調査研究数（調査報告書作成数）	9本	10本	10本	13本	
	② 国際機関、内外の大学・研究機関における役員等就任数	8件	10件	10件	11件	② 海外研究機関等との研究協力・連携	4回	10回	10回	13回	
	③ 科学研究費を含む外部資金獲得数	5件	5件	6件	8件	③ 研究者向け研究会の開催	9回	9回	10回	9回	
④ 第3者による研究内容の評価（RePEc九州内上位3位内）	—	2位	RePEc九州上位3位内	2位	④ 国内外学会等での研究発表数	36回	40回	30回	53回		
					⑤ 外部評価委員会の開催	実施	実施	実施	実施		